

35) まぎらわしいグラデーションは削除し、均一の色にする。



明治の半ばごろから、毎年2～3月ごろになると、岐阜と長野の県境にある野麦峠には、山道をもくもくと歩く少女たちの行列が続きました。飛騨地方から諏訪地方の製糸工場に出かせぎに行く少女たちでした。



少女たちはどんな仕事をしていたのだろう。

映画「あゝ野麦峠」より

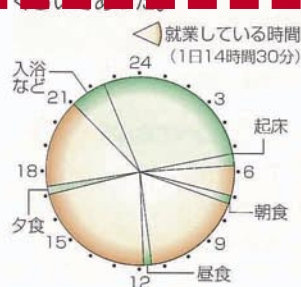
## 7 糸を引くのも国のため

### ●社会問題の発生



産業の急速な発展にともなう、どのような問題が起こったのだろうか。

① 当時は、米の値段が1kg10銭くらいあった。



② 女工たちの暮らし

### 労働問題

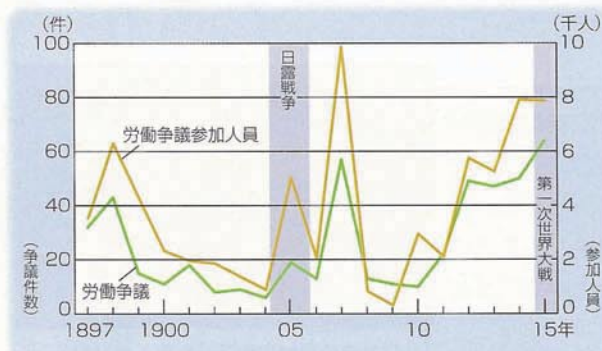
19世紀末から20世紀初めにかけて、日本は急速な工業化を進めたが、それは同時に、いろいろな社会問題を生み出した。工場や鉱山で働く労働者の数は増えたが、その多くは、農地を手放した農民、農家の二・三男や娘たちであった。彼らは家計を助けるために、現在からみると、非常に厳しい条件で働かなければならなかった。

1897年ごろの統計によると、重工業の男子労働者には1日10時間労働で日給30～35銭くらい、紡績会社の女子労働者には、1日12時間労働で7～25銭くらいの賃金が支払われた。中小企業の多い製糸業では、労働条件はもっと悪く、1日16～17時間労働もあった。

### 社会運動と政府の対応

労働者が団結して、悪い労働条件を改善しようとする運動が、日清戦争後、片山潜らの指導で進められた。労働組合がつくられ、労働争議も起こった。

政府は治安警察法を制定して取りしめるとともに、資本家と労働者の



③ 労働争議の件数と参加人数 (『日本経済統計集』)

原本赤枠内の円グラフの、緑とオレンジのグラデーションについて、それらを削除した上で、均一の色に変更しています。

